

★★★★



日本・トルコ友好130周年陸上追悼式典に際し、エルトゥールル号殉難将兵587柱の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

エルトゥールル号はまさに130年前、イスタンブールから長途の航海を経て、横浜で我が国との親善の大役を果たした後、不幸にも海難に遭遇し、多くの将兵を失いました。

この檜野崎沖で生じた悲劇的な遭難事故ではありましたが、大島村村民の献身的な救助活動がきっかけとなり始まった日本・トルコ友好の歴史も、今年で130周年を迎えました。

この記念すべき年に、私たちは新型コロナウイルスの感染拡大という世界的な脅威にさらされ、日常生活のみならず、海上自衛隊の活動も大きな影響を受けております。例えば、初任幹部の洋上訓練及び諸外国との友好親善促進を目的とする遠洋練習航海部隊はちょうど今日、トルコのメルシンで実施される追悼式にあわせて当地を訪問させていただく予定でしたが、断腸の思いでこの訪問を取り止めなければならず、甚だ遺憾でありました。

しかし、このような未曾有の脅威に直面した時こそ、改めて日本・トルコの友好の礎となったこの遭難事故に一層深く思いを馳せております。エルトゥールル号の殉難将兵が残してくれた、困難に立ち向かう勇気。大きな悲しみを深い絆に変えた、大島村村民の思いやりの精神。これらは、両国が大自然の脅威を乗り越え、やがては類いまれな友好関係を結ぶことができることを証明する、歴史の目撃者であり、未来への希望です。私たちは時代を超えて引き継がれるこのエルトゥールル号遭難事故以来の歴史的関係を日本・トルコ友好の礎とすべく、海上自衛隊とトルコ共和国海軍の間で、長く継承していきたいと思っております。

結びにあたり、エルトゥールル号殉難将兵のご冥福を衷心よりお祈りいたしますとともに、追悼式典の開催に御尽力されました串本町及び駐日トルコ大使館の皆様に敬意を表し、追悼の詞（ことば）といたします。

令和二年九月十六日

防衛省海上幕僚長

海将 山村 浩